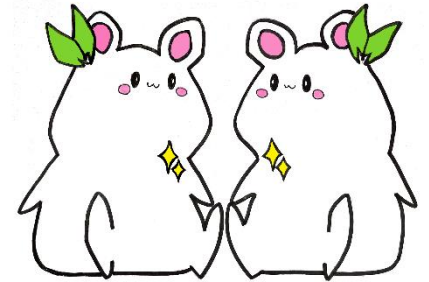


光が丘第二中学校 学校だより

特別号

- 1 「全国学力・学習状況調査」(3年)結果
- 2 「学力向上を図るための調査」結果
- 3 「東京都生徒体力・運動能力・運動能力調査」結果

(概要)



1 「全国学力・学習状況調査」(3年)結果

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
光二中	107	11.0 / 15	74	12.0	3.3
東京都	71,460	10.8 / 15	72	12.0	3.3
全国	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

数学	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
光二中	108	8.9 / 15	59	9.0	3.8
東京都	71,470	8.2 / 15	54	8.0	3.9
全国	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

英語	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
光二中	108	9.9 / 17	58	9.0	4.5
東京都	71,486	8.8 / 17	52	9.0	4.3
全国	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

3年生 国語

(実施日 令和5年度4月18日)

本校の平均正答率は「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」の分類のすべてにおいて、全国公立中学校の平均正答率や東京都公立中学校の平均正答率をほぼ上回った。中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題は正答率が高い。3年間、毎週の授業内で行ってきた漢字の小テスト等の取組が、語彙力を高めるきっかけとなったのだと考えられる。また、文章中の言葉の意味を文脈から予測させる活動によって、推測する力が身に付いた。

一方で、「我が国の言語文化に関する事項」の問題の正答率が低い。古典に苦手意識があることが課題である。古文・漢文の基礎的な法則を理解したうえで、作品の中でどのように使われているのかを読み取る力が求められる。

3年生 数学

(実施日 令和5年度4月18日)

本校の平均正答率は「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」の分類のすべてにおいて、全国公立中学校の平均正答率や東京都公立中学校の平均正答率をほぼ上回った。

しかし、問題別集計結果を見ると、「グラフを考察する手段を選択し、正しく考察を行う問題」の正答率が低かった。このことから、「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」「考察に必要な情報を精査すること」に課題があったと考えられる。

以上のことから、その式の意味を読み取る力、グラフの意味を理解し読み取る力、文字を用いた式を具体的な場面で活用して説明する力が求められる。

3年生 英語

(実施日 令和5年度4月18日)

本校の平均正答率は「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」の分類のすべてにおいて、全国公立中学校の平均正答率や東京都公立中学校の平均正答率を上回った。特に書くことは、全国、東京都の平均正答率を大きく上回った。授業では常に、復習文型を使ったQ&Aの練習や、基本文を使って、自分のことを話したり、書いたりすることで表現力を身に付けることができた。

買い物の場面における会話を聞き取る問題では正答率が東京都の正答率よりも下回っていた。他の聞き取りの問題は正答率が高かったが、問題によっては不得意な部分も見られる。値段や、時間など数字に関する問題は正確に聞き取れない生徒もいたので、数字を言ったり、聞き取ったりの練習が必要である。

3年生 質問紙調査

(実施日 令和5年度4月18日)

①「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、全国、東京都は約43%が「当てはまる」と回答したが、本校の「当てはまる」の回答は約48%である。「どちらかといえば、当てはまる」まで含めると約81%の生徒が学校に行くのが楽しいと感じている。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどのくらいありますか」という質問に対して、全国、東京都は約42%が「よくある」と回答したが、本校の「よくある」の回答は約46%である。この2つの質問から、楽しく生活を送れている生徒が多くいることが読み取れる。

②「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

という質問については、「当てはまる」の回答が、全国、東京都と比べると、約4%高い。しかし、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問については、「当てはまる」の回答が、全国、東京都と比べると、約4%低い。このことから、地域貢献や社会貢献に対する意欲はあるものの、実際に参加するまでには至っていない現状がある。積極的にボランティアや行事に参加できる雰囲気づくりやシステムを構築していく。

③「1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して、全国、東京都と比べると、約20%低い。これは、1・2年次に比べ、3年次で教科や総合的な学習の時間でICT機器を使う頻度が飛躍的に増えたことから、相対的に、1・2年次の使用頻度が低く感じたものとする。

2 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果

(実施日 令和5年度 5月19日(3年)、6月9日(2年)、6月12日(1年))

今年度も東京都では児童・生徒の学びに向かう力等に関する意識調査および学校の指導方法の分析による成果と課題を検証し、指導のさらなる充実や組織的な授業改善等に役立てるとともに、そのような取組を通じて児童・生徒の学力向上につなげていくことを目的として「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を東京都の全公立小中学校で実施しました。

本校ではその調査結果と5教科(国語・社会・数学・理科・英語)による分析を各教科3観点に則り、教科部会で検証しまとめたものをここに公表いたします。

ご家庭においても、お子様の個人表をもとに、今後の学力向上に向けた取組につなげていただければと思います。以下は各教科の分析結果のまとめです。

<国語> (1は「知識・技能」の観点、2は「思考・判断・表現」の観点、3は「主体的に学習に取り組む態度」の観点)

1	<成果>与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことができる。漢字テストや百人一首など、積極的に取り組んでいる。
	<課題>定着という部分に課題が残る。知識が「自分の考えを構築する手段の一つ」として用いられることをしっかり理解し、使えるように指導していきたい。
2	<成果>積極的に考えようとする生徒が多い。「考えること」自体を楽しんだり、人の考えを聞いたりすることに面白さを見出している。
	<課題>「考えたこと」を発信することに自信がない。一つの正解に対しては積極的に発言をするが、「言葉の選択の幅が広い」ものに対しては消極的である。発信し、また吸収し、言語感覚を磨いていくようにしていきたい。「言語感覚を磨く」という点で国語は「どちらかというところ」の理解に留まっているのではないか。
3	<成果>考えを構築することに魅力を感じている生徒が多く、授業に積極的に参加している。また、スピーチの準備や群読の準備にもしっかり取り組み、前向きに取り組む生徒が多い。
	<課題>「どちらかといえば得意ではない」「得意ではない」と回答する割合は全体として42%程である。授業に関しては「まったくわからない」と答える生徒がほとんどいないことから、自分の得意な部分、苦手な部分を自覚できるような授業展開をして、自分の課題に向き合えるようにしていきたい。

<社会>

1	<成果>・学習内容の理解度が東京都よりも高く、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」
---	---

	<p>の回答は東京都が 82.6% に対し、本校が 90.1% である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元振り返りシートの提出、タブレットを活用した単元テストなどの取り組み等により知識の定着がみられる。 <p><課題> ・ 学習内容の理解度に学年によってばらつきがあり、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」の回答は本校の 1 学年は 84.4%、2 学年は 91.7%、3 学年は 94.5% である。社会科の学習は積み重ねが大切であるため、特に 1 学年の理解度が低いことは、課題である。指導方法の工夫や I C T 機器の有効的な活用方法を模索していく。</p>
2	<p><成果> ・ 単元ごとに学習内容を振り返り、自分の考えや学んだ内容をまとめることで、適切な情報を判断し、考える力および自分の考えを表現する力の育成に取り組んでいる。また、授業内でプレゼンやディベート等を行うことで、自分の考えを表現する機会を増やすことができた。</p> <p><課題> ・ 社会科に対して、「得意である」との回答率が比較的低いことがわかる。理解度が高いのにも関わらず得意ではない要因として、授業内で行う活動に苦手意識を持っていると考えられる。今後も改善を重ねながら、自分の考えを発信したり、他の考えを聞いて、深めたりすることが楽しいと実感できる活動を模索していく。</p>
3	<p><成果> ・ 提出物を期限に提出したり、意欲的に発言をしたり、積極的に学習に取り組むことができている。</p> <p><課題> 活発な発言を促していたが、自由な発言が増えてきてしまった。授業内の発言のルールと指導を徹底し、すべての生徒が安心して授業に取り組める環境づくりをしていく。</p>

<数学>

1	<p><成果> 「知識・技能」はほぼ定着してきている。正しく計算するなど、授業を通して、基礎的な知識・技能は身に付いている。</p> <p><課題> 正しく計算する力がある生徒は多いが、問題文の内容を図や表、グラフに表してから考えるという、問題を解きやすくする過程を踏む生徒が半数にとどまっている。</p>
2	<p><成果> 授業内で、考え方の根拠や発想の起点を問うことで説明する力が付いてきている。また、生徒同士で教え合う姿も増えてきている。</p> <p><課題> どのように解いたらうまくいくかを考えている生徒が 6 割を切るため、「思考・判断・表現」を伴う難しい問題のとき、自分の力で最後まであきらめずに取り組んでいる生徒が 7 割を切っている。</p>
3	<p><成果> 記述式課題やテストを行ったことで、ただ答えを出すだけでなく、その過程の意味を理解し、説明する力が身に付いてきている。</p> <p><課題> 主体的に取り組ませるために、家庭学習の必要性を感じさせ、その成果を味わわせる必要があること。正答が求めることができれば良いという考えをなくすために、授業内で説明することを求めていく必要がある。</p>

<理科>

1	<p><成果> ・ 学習内容の理解度が東京都よりも低く、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」の回答は東京都が約 80% に対し、本校が約 72% である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験器具のパフォーマンステストや、単元ごとのワークシートや練習問題などに取り組むことで深い理解を得ることができている。 <p><課題> ・ 学習内容の理解度に学年によってばらつきがあり、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」の回答は 1 学年では上記した結果である。中学校の学習の取り組み方に対するギャ</p>
---	--

	<p>ツプが少なからずあったのだと考えられ、指導方法の工夫やICT機器の有効的な活用方法を模索していく。</p>
2	<p><成果>・実験・観察のレポートを通じて、考察について考えたり、グラフや作図による表現力を高めたりすることで、科学的な思考力の向上につながっている。</p> <p><課題>・「平日の家庭学習の時間数」の質問に対し東京都の数値を若干下回るため（都は、38%、本校33%）、家庭での課題学習をふやす等の学習の習慣化を促進するような授業構成を考える必要がある。</p>
3	<p><成果>・実験観察を通して、データの数値的な処理を行ったり、理科事象への興味をわかせる内容を取り込んだりした。多くの生徒は、実験・観察に興味を示しているので、今後もその感覚を大切にさせたい。</p> <p><課題>・学習内容により興味関心を持たせるとともに、身近な事象に直結させ、生活で生かせるような指導方法の工夫や教材等の開発を行っていく。</p>

<英語>

1	<p><成果>基礎学力は定着しつつある。学習内容の理解度が東京都よりも高く、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」の回答は東京都が約72.3%に対し、本校が約89.9%である。</p> <p><課題>学力の差が大きいのが本校の課題と言える。「どちらかといえば分らない」「ほとんど分らない」と答えている約10%の生徒の学力をどのように保障するかを考えなければならない。放課後の個別学習、家庭学習の方法の指示、及び基礎学習事項の精選等を進める必要がある。</p>
2	<p><成果>生徒の思考力・判断力が向上してきた。これは常に使用場面と伝えるべき相手を意識した課題提示を意識して指導してきたためだと考えられる。また同時に文法事項についても、どのような場面で使用するかを常に確認してきたためだと考えられる。</p> <p><課題>知識・技能が不足している生徒にとって思考力・判断力を高める学習活動はハードルが高いものとなる。生徒の発想力を大切に、生徒に任せるようにした思考力・判断力を養う場面設定の活動を行うと同時に、コミュニケーション活動中に生徒の表現をモニターし、適切な指導を行えるようにする。</p>
3	<p><成果>英語をコミュニケーションの手段として捉え、授業でペアワーク、グループワーク等のインタラクションを通じた活動を取り入れることによって、積極的に授業に取り組む生徒が増えてきた。</p> <p><課題>英語力の向上は授業だけで保証できるものではない。家庭学習の充実が不可欠である。課題を与えるだけでなく、どのような学習をすれば英語力が向上するのか生徒に指導する。またパフォーマンステストを実施するときは、評価基準を明確にし、生徒がしっかりと無駄なく学習できるように指導する。</p>

3 東京都生徒体力・運動能力・運動能力調査結果（実施日 令和5年度5・6月）

東京都生徒体力・運動能力調査は、握力（筋力）、上体起こし（筋持久力）、長座体前屈（柔軟性）、反復横跳び（敏捷性）、20mシャトルラン（全身持久力）、50m走（スピード）、立ち幅跳び（瞬発力）、ハンドボール投げ（巧緻性、瞬発力）の8種目を行い、体力の傾向を把握する。本校では、1学期に実施した。次に示すのは、各学年、男女別の体力テストの結果である。

1年男子は、相対的に全国平均より低い。東京都、練馬区が全国平均より低い傾向にあるが、それと比較しても低い結果となった。特に、20mシャトルランと反復横跳びが低い結果となった。50m走は、全国平均と同程度の水準となった。

1年男子	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボ -ル投げ	体力 合計点
学校平均	154.6	44.2	22.8	22.5	39.1	46.5	59.3	8.4	179.4	17.0	31.6
練馬区平均	154.2	43.9	23.4	23.1	38.6	47.8	65.5	8.6	180.0	17.2	32.4
東京都平均	154.6	44.4	23.6	23.2	39.4	48.7	64.3	8.6	181.0	17.4	32.7
全国平均	153.4	43.9	24.6	24.5	40.3	49.5	73.1	8.4	181.0	18.7	35.5

2年男子は、全国平均、東京都平均より高い種目が多くなった。測定種目の中では、握力が低い傾向にあった。また、1年次の結果と比較して、全体的に結果が良くなった。

2年男子	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボ -ル投げ	体力 合計点
学校平均	160.6	48.9	28.5	28.8	46.9	55.9	92.3	7.8	206.2	20.7	46.1
練馬区平均	162.0	49.0	28.4	25.8	42.1	51.3	78.1	7.9	197.5	19.6	40.3
東京都平均	161.8	49.3	28.9	25.9	43.2	51.8	77.9	7.9	198.3	20.4	40.9
全国平均	160.2	48.4	30.1	28.4	44.0	53.1	90.8	7.8	197.7	21.5	44.7
R4年度 (1年次の 学校平均)	153.4	43.3	23.5	25.6	44.7	50.7	70.7	8.6	182.5	17.2	35.7

3年男子は、相対的に全国平均より低い傾向になった。特に、20mシャトルランと握力が低かった。長座体前屈は、全国、都、区を上回る結果となった。2年次の結果と比較すると、ほとんどの種目で向上したが、20mシャトルランは低くなった。

3年男子	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復横 とび	20m シャトルラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボ -ル投げ	体力 合計点
学校平均	167.3	53.3	31.3	27.8	48.1	54.1	82.4	7.5	204.4	21.7	47.4
練馬区平均	166.8	53.8	33.4	27.7	45.8	53.8	82.6	7.6	209.8	22.3	46.6
東京都平均	166.7	53.8	33.4	28.0	46.5	54.4	84.9	7.5	211.6	23.0	47.4
全国平均	165.0	53.2	35.4	30.5	47.1	56.1	97.7	7.4	212.4	24.1	51.6
R4年度 (2年次の 学校平均)	162.0	48.8	27.3	26.0	44.5	50.9	85.5	7.8	190.2	20.4	42.6

1年女子は、相対的に全国平均より低い種目が多かった。特に、20mシャトルランは、全国、都、区と比較して顕著に低い傾向にあることが分かった。立ち幅跳びは、各平均を上回る結果となった。

1年女子	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボ -ル投げ	体力 合計点
学校平均	153.3	45.7	22.3	20.4	42.7	43.6	41.5	9.2	167.5	10.4	42.2
練馬区平均	152.8	43.7	21.1	20.1	42.9	44.0	44.0	9.2	160.9	10.6	41.5
東京都平均	153.0	43.9	21.1	20.2	43.4	44.7	44.5	9.2	162.8	10.7	41.9
全国平均	152.0	43.4	21.9	21.1	43.7	45.5	53.4	9.0	165.0	11.9	45.4

2年女子は、各平均を上回る種目が多い傾向にあった。測定種目の中では、50m走と20mシャトルランが低い傾向にあることが分かった。1年次と比較すると、20mシャトルラン、握力、立ち幅跳びなどの良くなった種目もあるが、横ばいまたは下回った種目があることが分かった。

2年女子	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボ ール投げ	体力 合計点
学校平均	156.3	46.0	23.5	22.9	50.7	49.1	57.6	9.0	179.4	14.2	51.9
練馬区平均	155.5	46.5	22.9	21.8	44.7	45.2	50.4	8.9	166.1	12.0	46.2
東京都平均	155.5	46.6	22.9	22.0	45.6	45.9	50.3	8.9	167.4	12.1	46.8
全国平均	155.0	46.6	24.4	23.7	46.6	47.0	61.9	8.7	170.7	13.5	51.4
R4年度 (1年次の 学校平均)	153.2	43.2	22.0	22.5	50.8	46.0	45.8	9.2	167.4	12.1	47.7

3年女子は、全ての種目において全国、東京都の平均を下回った。特に、20mシャトルランと反復横跳びは顕著に低い。全体的に、他学年と比較しても、平均を下回る種目が多い傾向にある。2年次の結果と比較すると、横ばいか下回った種目が多かった。

3年女子	身長	体重	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち 幅とび	ハンドボ ール投げ	体力 合計点
学校平均	155.1	47.8	22.2	20.4	47.3	41.4	37.0	9.1	151.1	10.8	41.0
練馬区平均	157.0	48.7	23.9	23.0	46.5	45.2	48.7	8.8	166.0	13.1	48.2
東京都平均	156.9	48.7	24.1	23.0	47.2	46.6	50.7	8.8	169.4	13.1	49.2
全国平均	156.3	49.1	25.5	24.8	48.4	48.0	60.7	8.6	174.8	14.4	54.0
R4年度 (2年次の 学校平均)	154.2	45.7	21.0	20.6	46.7	41.4	41.7	9.3	150.3	11.0	40.7

全体を通して

1年生は、コロナウィルス等の影響により、シャトルランをはじめとして、測定の実施経験が少ない生徒が多く、その他の種目についても慣れない動きに苦戦したり、正しい計測方法を覚えたりすることから始まった。練習時間は確保して行ったが、経験を積めば記録が伸びる可能性がある。普段の授業の様子からは、スポーツ・運動など体を動かすことが好きな生徒が多く、比較的体力はあるように感じる。しかし、様々な運動経験が不足しており、走ること以外の複数の運動が組み合わさる運動(球技など)が苦手な生徒が多くみられる。授業はもちろん、様々な運動、運動遊びを経験をすることが必要である。

2年生は、男女ともに全国、都の平均を上回った種目が増え、体力の向上が見られた。授業はもちろん、部活動に熱心に取り組む生徒が多く、継続して運動できている生徒が多いためと考えられる。握力は筋力を測定している項目で、鉄棒や雑巾しぼりのような運動で鍛えられるが、そういった運動機会は少ないため、授業で取り入れている、手をグーパーと握っ

て開く運動など、手軽にできる運動や日常生活の動きの中で筋力を鍛えていくことも大切である。女子は、運動を継続している人としていない人の差が出てきており、50m走やシャトルランの結果に表れている。日頃の運動機会が少ない人は、授業内でたくさん動くことや学校の昼休みに体を動かすなど、学校にいる時間を有効に使ってほしい。

3年生は、男子は区の平均を上回る種目が多くあり、昨年度からの体力向上も見られた。女子は区の平均を下回る種目が多く、特に反復横跳びや立ち幅跳びなどの瞬発力や敏しょう性を測定する種目の値が低い傾向にあった。保健体育の授業では、男女とも多くの生徒が前向きに取り組み、授業評価アンケートにおいても肯定的な意見が多く見られる。今後も継続して授業に意欲的に取り組めるように工夫し、運動量の確保をしていく。また、保健体育の授業だけでなく、休み時間や自宅で過ごす余暇の時間にも積極的に体を動かし、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質・能力の向上ができるよう、保健分野の時間に豊かなスポーツライフについて指導していく。

今年度、1・2年生は夏休みに運動プログラムを実施する宿題を出したり、希望者を対象として水泳教室を実施したりした。運動プログラムは、指定した運動を選択し、「誰かと一緒に運動すること」が課題であったが、多くの方に協力いただいた。良いきっかけになった、自分もスッキリした、楽しかったなど多くの感想を寄せていただき、運動のきっかけを作ることができた。水泳教室は、少人数の参加であったが、一生懸命参加し、運動機会の確保につながった。

3年生は、授業開始前に校庭や体育館に来て体を動かす生徒が多く、個々の課題の改善に向けた取組が行われている。2学期以降は部活動に参加する生徒が少なくなるため、意識的に筋力トレーニング等の補強運動や持久走を実施し、体力・筋力の維持に努めた。

また生徒の希望から、昼休みの体育館開放が始まり、運動できる場所が増えた。しかしながら、体力はまだ全国平均に届いていない。家庭でも家族や友達と運動する機会を作っていただき、運動を継続できる環境を作っていくことをお願いしたい。そのために、学校では環境を整えたり、授業で運動に興味・関心がもてるように工夫したりする。